ＪＡＧＴ
News
Letter
NO. 21

2021 年 10 月

Japanese Association of Gestalt Therapy

日本ゲシュタルト療法学会

―― 目 次 ――

p.1　【特集】日本ゲシュタルト療法学会 第 11 回大会が終わって
大会長より（日本ゲシュタルト療法学会理事長　室城隆之）
参加者の感想
大会スタッフ感想

p.17 【報告】研修委員会主催研修
夢のワークファシリテーション
オンライン大会　第 3 回日本のゲシュタルト療法研究の発表

p.21 【国際交流】海外学会情報 ＆ 書籍情報

p.23 【告知】ワークショップ情報

p.24 事務局からのお知らせ
編集後記

【特集】日本ゲシュタルト療法学会 第 11 回大会が終わって

大会長　室城　隆之（日本ゲシュタルト療法学会理事長）

2021 年 7 月 23 日から 25 日までの 3 日間、日本ゲシュタルト療法学会第 11 回大会が、「生き方を学ぶためのゲシュタルト療法学」をテーマに、オンラインで開催されました。初めてのオンラインでの大会開催ということで不安もありましたが、141 名の方々にご参加いただき、無事開催することができました。

Ansel Woldt 博士による大会初日の基調講演および 2 日目のワークショップでは、ゲシュタルト療法の哲学と方法論について、Ansel から貴重なお話をうかがうことができました。基調講演では、Ansel は、ご自分の人生を語りながら、ゲシュタルト療法において大切なのは、相手とともに「今ここ」にいること、そして人生を生き延びてきた相手の賢さに敬意を払うことの大切さを教えてくださいました。2 日目のワークショップでは、さらにゲシュタルト療法のキー・コンセプトである「今ここ」「何とどのように」「我と汝」について、詳しく説明していただきました。ゲシュタルト療法では「今ここ」で明白な現実に焦点を当てること、そこにはクライエントの大切なことが現れるので、それを評価せず、そのまま受け入れること、そしてファシリテーターが直感で感じることを大切にすることなど、多くのことを学ぶことができました。そして、講演やワークショップの中で行われたデモンストレーション・ワークは、まさに「今ここ」で相手に関わる Ansel の姿を見せてくださるものでした。そして、Ansel が「また皆さんに日本で会うことを楽しみにしている」と言ってくださったことが、何よりうれしかったです。

大会 3 日目の百武正嗣前理事長による「対話的アプローチ」の講演では、最近理論を語り始めた百武さんが、ゲシュタルト療法の全体像とその中で「対話」とは何なのかについて、詳しく説明してくださいました。そして、「対話」とはお互いに影響を与え合う場であり、ファシリテーターが「今ここ」の場でクライエントに影響を受けていることを語ることから「対話」は始まること、そしてファシリテーターは常に、クライエントに問いかけると同時に、同じことを自分自身にも問いかける必要があることなどを学びました。もっともっと話を聞きたい、そんな風に感じる時間でした。

初日の大会長講演とそれに続く「みんなで話し合おう」は、学会員の皆さんの生の声を聴き、話し合う時間を設けたいという学会理事会の切な願いから、初めての試みとして実施したものでしたが、参加者の皆さんから予想以上の反響をいただき、とてもうれしく思っています。それと同時に、このような学会員全員がそれぞれ自分の話をし、他の人たちの話を聞くことができる時間がどれほど豊かな時間であり、大切なことであるかをあらためて感じることができました。今後も学会として、学会員の皆さんが主体的に参加できるこのような時間を大切にしていきたいと考えています。

また、2 日目には初めて、領域別シンポジウムを行いました。臨床、教育、産業、自己成長の 4 領域に分け、それぞれの領域の実践者にシンポジストをお願いし、参加者で話し合うというものでしたが、領域を分けることによってより自分に身近なテーマを話し合うことができる場となり、こちらも非常に有意義な時間になったと感じました。このような場も、今後も設けていきたいと考えています。

さらに、それぞれの研究発表やワークショップ、自主シンポジウムも、発表者の個性が生き生きと示されるとともに、参加者との意見交換が行われ、活気のあるものになりました。学会の大会では、やはりこのように、学会員の皆さんの実践を共有できる研究発表が活発なものになることが大切であること

を、あらためて感じました。今後の大会においても、学会員の皆さんの積極的な研究発表を楽しみにしています。

以上のように、今回の大会は、期待した以上の成果をあげることができました。あらためて、今回の大会開催のためにご尽力いただいたスタッフの皆様、ご講演や発表をしていただいた皆様、そしてご参加いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。また、来年の大会で皆さんにお会いできるのを、楽しみにしています。

参加者の声　～大会アンケートより～

第 11 回大会にご参加くださった皆様、アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。いただきましたアンケートは、大会事務局である理事会でもシェアさせていただいております。多数のご意見をいただきました。本誌では一部しかご紹介できませんが、ご参加いただけなかった皆様にも大会の雰囲気が伝わることを願っています。

また、Ansel Woldt 博士による基調講演およびワークショップについては、デモ・セッションおよびワークを体験された方からも感想をいただいています。

【お詫び】講演者／発表者の写真を掲載していますが、一部記録ができておらず写真のない方もいらっしゃいます。申し訳ございません。

基調講演　アンセル・ウォルト Ed. D.「ゲシュタルト教育学的哲学と方法論―生き方について」

【デモンストレーション：ワーカーの体験報告】渡辺光俊さん

アンセルとのワークは、約 6 年前に新潟県長岡市で開催された WS 大会でのワーク以来の 2 度目。その後、私自身が新潟県へ単身赴任となるという、不思議な縁を感じています。

ワークの始めに、アンセルは「またワークをしてみようと立候補してくれたことに感謝している」と言い、驚きながらも“感謝”という言葉が心に響きました。ワークのテーマ「自分自身を受け入れること、愛すること、赦すことが難しく、そこに触れたい」を伝えました。直後に“I AM LOVABLE AND CAPABLE”（私は、愛することができる、そしてその力がある）と言ってみることを提案されましたが、すんなり受け入れることができず、困惑し、息が止まる感覚を覚えました。そんな自分に、みんなから言ってもらうことを提案されました。「トシは、愛されることができる、その力がある」と多くの方が言ってくれたことで、ようやく息ができるような感覚になりました。ありがたさと共に、自分自身が受け止められないことに対する苦しさがさらに大きくなりました。

今回もアンセルの温かさ、受容の深さの中に居られたことで、自ら言ってみようという気持ちが湧いてきました。あの温かさ、安心感はアンセルの人柄もあり、人を受容できる力なのだと感じ、私のゲシュタルト療法セラピストのモデルの一人でもあります。いざ言ってみようとすると、言葉にならない想いが溢れてきました。言い終えると、まだ受け入れられない自分がいるけれど、言えた自分もいるのだなと、自分を責めつつも温かい気持ちにもなれました。

ワークで励ましの言葉をかけてくれた方々、その場に一緒に居てくれた皆さん、そしてアンセルに感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました。

- 「ファシリテーターとして個人的・社会的自己を一致させる」、「全ての人は何かに賢いのです」など明確でアンセルの言葉が今も心に残っています。今後も、とても大切にしていきたい言葉です。ありがとうございました。
- あらためてゲシュタルト療法が何をするものか、を確認できた、その人間観（哲学）に立脚することから直接流れ出てくることが強みの一つだ、という言葉が今後も私を支えてくれるに違いない。個人の成長が、ファシリテーターとしての成長に欠かせないこと、それが「正直さ」を容易にするサポートであるという言葉も印象に残った。ゲシュタルト療法の原則（人間観）は、ファシリテーターを育てる場においても全く同じだと聞けて嬉しかった。自身の 5 歳の事故のことを話してくれたが、心から正直に話す、表現することが右脳・左脳をつなぐ働きを高めるということが新しい発見だった。
- Ansel ご夫妻のお人柄が伝わって、さらに豊かな講演となったと思います。講演内容は半分ほどでしたが、学会誌でさらに学ぶことができると思います。丸山さんの通訳が素晴らしいと思いました。
- アンセルとトシさんのワークに感動して涙がでました。また「正直に、誠実に、体験することをサポートする」というゲシュタルトの目標が、心に残りました。
- デモセッションでの「あなたは愛されることができて、そして力があります。その理由は、あなたがとても human だから」という言葉はアンセルさんの人としての在り方なんだろうなぁと感銘を受けました。
- アンセルさんの在り方が、ファシリテーターとしての在り方の参考になりました。「今ここ」に「どのように」存在しているか、を探究していくことが大切だとあらためて思いました。「教育は、生徒自身の自然な学びに添うことによって最も発揮される」という言葉に共感しました。
- アンセルにはなれないにしても、どうすれば近づけるのだろうと思う。ファシリテーターだからワークをしないのではなく、愚直にワークを重ねていくことや少しづつでも理論や哲学に触れ学ぶことが大切なのかなと感じました。もう一度を呼んで頂き、アンセルから学びたいです。

ワークショップ　アンセル・ウォルト Ed. D.「今、ここ・我ー汝・ゲシュタルト療法の What と How：在り様・対話・過程、ゲシュタルト療法の真髄」

【個人セッション：ワーカーの体験報告】岡本太郎さん

最初にワークに当選した時、嬉しかったですが、「当たっちゃったよ！」と驚愕した状態で、頭も真っ白でワークに臨みました。また、特に話したいことを考えていたわけでもなかった僕に、アンセルはとても自然に、包み込むように歓迎してくれました。「嬉しいね。成長するのに、課題を作る必要はないんだよ」「君のことをポジティブに感じている」と、率直に今ここでの思いや僕への肯定感を伝えてくれたことが嬉しくて、サポートになり安心できました。また、100 人以上が見ている Zoom という場のセッションであることにも、注意を払ってくれていました。

僕が自分に意識を向ける時間を取りつつも、アンセルは彼自身がそこにいることを大切にしていたように思います。僕が不安を感じていても、アンセルは「とてもカジュアルで、どっしり座っているように見えるよ」と伝えてくれたり、僕が“他者からどう思われるのかが不安だ”と伝えたことに対して、アンセルは彼と僕との今ここでの関係の中で、それがどのように起きているかを大切にしてい

ました。そして「やっぱり僕は君をポジティブに感じる」と再び暖かい言葉を伝えてくれました。今考えると、それは僕自身の一番のニーズだったのかもしれません。

僕自身がサポートされていないところに、彼がそっと暖かい手で触れて、包んでくれるような、そんな体験をしていました。アンセルに甘えられていたなと思います。

- グループワークに参加できました。オンラインで難しいことも有りますがアンセルと会えた事がとても嬉しかったです。そして、アンセルの暖かい表情が大好きです。
- グループワークのクライアントに選んでいただき、体験できたことが印象に残っています。アンセル博士はじっくり、ゆっくり、クライアントの自主性を尊重しながら、進めていかれる方なんだなぁ、と思いました。安全感とご自分の気持ちを再度再度お話しされておられたことがとても印象に残っています。ありがとうございました。
- 10 年程前に横浜で開かれた大会でアンセルのワークショップに参加しました。その際に我と汝の関係の説明を受けたことを覚えています。我―汝のハイフンがとても大切で、thouing と右の人差し指をくねらせて関わっている様子を伝えてくれました。今回はそれが汝化という動詞的な関わりと私にとって明確になりました。
- 講義に命を吹き込んだ Work を見せていただいた。Ansel の存在そのものが温かく包み込むような在り様で、理論が自然に言葉に溶け込んで Worker に伝わっていた。それによって我―汝の「―」が繋がって汝の成長を促していた。「汝化する」大切さを心したい。Zoom でのグループワークのやり方も学べた。時間が足りずにグループワークのダイナミズムを見られるまで行けなかったのが惜しかった。
- ワークの前のアンセルのレクチャーで、どこに焦点を当ててみるのかをお話ししていただいたように思います。なのでグループワークも含めて、ワークの見方がいつもとは違っていたような感覚がありました。
- ワークもグループワークも素敵でした。アンセルに日本に来て欲しいけれど、ZOOM でも良いので、またワークショップを開催して欲しいです。今度は是非ワーカーになりたいです。

大会長講演　室城隆之氏「生き方を学ぶためのゲシュタルト療法学―私にとってのゲシュタルト療法、そして日本ゲシュタルト療法学会」

- ゲシュタルトは好きですが「自分にとってのゲシュタルト療法とは」と意識したことはありませんでした。改めて考える機会を得て、私にとってゲシュタルトは、人とのコミュニケーション・生き方の指針になっていることに気づくことができました。室城さんのお声や講演内容が穏やかな感じであったので、じっくり自分にとってのゲシュタルトに向き合うことができたように思います。ありがとうございました。
- ゲシュタルト療法について自分の中でも整理されたので感謝です。船はこちらの方に進むのかな、という方向がなんとなくわかった感がありました。が、ここから先の航海の険しさ長さも感じました。
- 何よりも室城さんの誠実な人柄が伝わってきました。私はまだ学会に参加するのが 2 度目ですが、会の発展にご尽力いただいているのですね。こうして学会に参加できるのは。室城さんを

はじめ理事会の皆さんのお陰です。ありがとうございます。

- 室城さんのゲシュタルトと出会いや学会への思いをお聞きできてより親近感を感じました。理事会も含めいろいろな意見をそれぞれ大切にしつつ方向をまとめてくださっていることに感謝します
- 室城さんの学会へのこれからを考えられた率直な提言を聞かせていただいてなるほどと思いました。私はアカデミック畑にはいないということで、学会に属していることに勝手に引け目みたいなものも若干感じておりました。しかし私とゲシュタルトとの関わりがどのようなものであるか見直してみることで、自分にとっても、ゲシュタルト療法を必要としている人にとっても微々たるものであっても役に立つかもと思えました。
- 室城さんの飾らない率直な語りが心にすっと入ってきました。ゲシュタルト療法や学会に対して誠実に向き合ってこられたことが伝わってきました。これまで見えない部分で、たくさんご尽力いただいていたことに感謝しています。そしてお話を聞きながら、今後のゲシュタルト療法学会がいろんな広がりがある可能性を感じてワクワクしてきました。ありがとうございました。
- 室城さんの正直さが伝わってきて、感動しました。分かりやすくゲシュタルト療法と学会への理解と思いを共有してくださって、感謝申し上げます。室城さんのお人柄がゲシュタルト療法の何たるかの一つのモデルと思います。
- 室城さんの正直で率直なゲシュタルトとの出会い、学会への関わりをうかがえて大変好感が持てました。ゲシュタルトセラピーのエビデンスと気づきの体験をレポートにまとめることなら私にもできるかもしれないと思いました。

大会企画　みんなで話し合おう

「ゲシュタルト療法が目指すもの、ゲシュタルト療法学会が目指すもの」

- 8人のメンバーだったので話しやすかった。言葉ではない雰囲気も他の理事さんたちに伝わればいいなと思います。自分が参加しているという実感が持てました。
- 理論など不要という人、理論をもっと知りたいという人、お互いの意見を受け入れている方々、これがゲシュタルトなんですね。私は自主的に本を読むことがないので、安価で zoom 勉強会などがあればとてもありがたいです。もっと基礎から哲学からも知りたいので、ゲシュタルトにおける現象学など分けて勉強会していただくのもありがたいです。
- 私は一時期、ゲシュタルト療法から離れて、サイキックなスピリチュアルの世界や、潜在意識を変化させる等のテクニックの学びも行っていました。最近、そのような心理療法とまでは言い難いけれど、心のことを扱う業種？の方から、エンプティチェアなどの技法の話や、ゲシュタルトの祈りの詩のことを聞く機会があり、ゲシュタルトが多業種？にも、かなり広がっているように感じました。しかし同時に、その皆さんがゲシュタルトの「哲学」を理解しようとされているのか疑問に感じる事もあります。そのような皆さんに、ゲシュタルトの存在をしっかり認識してもらえるような広報活動も、これから必要ではないかと思いました。
- 皆様のゲシュタルト療法への思いが、生きること、命、楽に生きる、自分を生きている実感など、共通の思いがある。学会の個人の自由の尊重、違いを尊重する雰囲気をこれからも続けていってほしいなどの意見を拝聴。学会への意見を聞くことが出来た好い機会であった。

- みなさんのゲシュタルト療法への思いが伝わってきて、あたたかい気持ちになりました。私が好きなことを、みんなも好きで、それがうれしかったです。初めての方、久しぶりの方にお会いできてよかったです。
- 自分の体験や思いはパーソナルなものである反面、それを誰かとシェアすることで、また豊かになる体験をさせていただきました。みなさんのゲシュタルトについてのお話を聞くことで、自分自身も心が動き、新しい何かが生まれてくるような感覚がありました。ありのままの自分自身で語り合い、感じることが出来た時間でした。ありがとうございました。
- とてもいい時間になりました。やはり、人との出会いをみんな欲しがっているんだね。
- こういう時間が良かった。話すことや聴くことでエネルギーが動いた感じがします。
- ブレイクアウトルームでは、参加された方のゲシュタルト療法の関りや体験談を聞けたのは貴重な経験でした。この時は 11 名のグループだったと思うのですが、時間のわりに人数が多かったように思いました。ひとりひとりのお話をもっと聞きたかったですし。話し合いがしたかったです。

特別講演　百武正嗣氏「対話型のアプローチ」

- 哲学的視点の重要性を改めて感じました。ももちゃん、ずいぶん喋るようになったなぁという変な感想も出てきました。我汝、我それそこを取りまとめる俯瞰的視点、そこに神ではなく哲学があるんだという理解をしました。神について、日本人には馴染みがあまりないという話がありましたが、「お天道様が見ている」という道徳的な意味合いや俯瞰して場を見ること、そして常に自分に問いていくことが哲学であり、生き方だと改めて思いました。自分が夫婦関係に問題を抱えたまま、夫婦関係を取り扱うことはセラピストの願望の体現となるワークになってしまう可能性もありますものね。これからも自分に向き合っていきます。
- ゲシュタルト療法の哲学的背景をわかりやすくご解説下さり、ありがたかったです。自分が十分理解できているかとは思いませんが、ゲシュタルト療法が大切とする多様性を認める、ジャッジしない、いまここに現れている現象に気づきを向けることがそういうところからきているのか、と学ばせていただきました。今後も自分自身も自分の内側で起きている現象に気がつき、それと共にあり、外側の世界に対してもそのように生きて行けたらいいなぁ、と思っております。ありがとうございました。
- 今までの海外招聘講師の言葉の引用しながら、整理できました。「我 - 汝」と「我 - それ」が連続的につながっていて動詞化するとか、moving from とか、アンセルの言っていたことが入ってきました。役割としてしなければならない企業でのカウンセリングの中でも、ここを行き来することを自分が意識すればよいことで少し楽になりました。その中でも「我 - 汝」となる瞬間を味わえるような自分でいたいと思います。
- 興味がありながらも、私自身がしっかり理解できていない現象学・実存主義を詳しく聴けたこと、対話とエンプティ・チェアのことなど、私自身の中で思っていたことが整理された気がします。もう一度じっくり見直したいと思います
- 最高！『対話』と言うと、言葉・思考が有意なイメージがありましたが、私は、ソマティック

も対話でファシリとワーカーが繋がっていると感じていました。『対話はソマティック』と聴いて、モヤモヤが腑に落ちました。もっと哲学や実存主義を学びたいと思いました。分かりやすく話して下さり、感謝です。

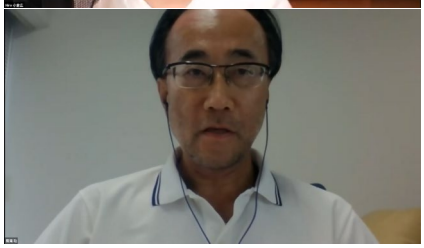
- おもしろかったです！私は古事記とか神道とか興味あるのですが、百武さんのお話されたことは古事記や神道の根底にある思想・哲学と通じるなぁと思いながら聴いてました。陰と陽、呼吸、内と外、心と体、対極にありながらつながっていて、両極の間を行ったり来たりしながら常に変化し続ける、この宇宙の仕組みに思いを馳せました。ファシリテーターとしての在り方もそうなんだなぁと思いました。
- 改めて理論的な考察をすることができてよかったです。とても勉強になりました。ただ、1点気になったのは、アセスメントについての発言です。個人的な考えでは、ワークにおいてアセスメントの情報を過度に利用するというようなことは必要ないとは思いますが、アセスメントを揶揄するような姿勢については、ももちゃんのような立場の方がされてしまうと、ももちゃんチルドレンへの影響が大きいので、問題ではないかと思いました。安心・安全なグループワークを受けるためには、やはりある程度はアセスメントがあるってみんな参加しているという信頼感は必要だと思います。ゲシュタルト療法学会がアカデミックな部分をある程度、今後強化していく場合にも、アセスメントに対する向き合い方は、しっかりと考えていただきたいと思います。

領域別シンポジウム

➢ 臨床（カウンセリング含む）／医療／福祉領域
（シンポジスト：安部美紀氏・岡本太郎氏・楳林康子氏）

- どの発表も素晴らしかったです。ゲシュタルトをどのように現場で生かすかとうテーマだったと思いますが、結局はその人のゲシュタルトを通しての生き方が現場に反映されるのだと思いました。
- セラピーをするうえでも「自分自身と向き合う」ことがやはりベースだなあと感じました。そして、トラウマを抱えているであろう青年たちと真摯に向き合う楳林さんの思いに触れられて熱くなりました。
- 楳林さんのはなしは、考えさせられました。やはり社会構造をなんとかしないと解決できないような気がします。阿倍さん時代に始まった竹中平蔵さんの目指す社会の、負の側面が最近目立ってきて、憂慮しています。
- 臨床とゲシュタルト。どのようないきさつや、どのような気持ちで、臨床家としてクライアントにかかわっているのかを聞けて、個別性と底に流れる共通性を体験した気持ちです。
- お三人がそれぞれご自身の体験を話され、そこからゲシュタルトに出会ってからのご自身がご自身であることを軸に発表されているお姿そのものから、それぞれのお人柄が伝わってきて感

動した。発表なさったことによって、またさらにご自身の領域で前進なさるのではないかと心強く思った。



➢ 産業領域（シンポジスト：白坂和美氏・小倉広氏・有滝功氏）

- 産業活動の中で、ゲシュタルト療法をどう活かしていくのか、ヒントと課題をいただきました。ありがとうございました。わたしは部下の立場ですが、身近な上長をみていると管理職研修も義務として受講している感じもします。いかに自分事として経験、体験に落とし込んでいくかが大事だと思いました。現場にいて、組織をガラリと変えることは難しいと思いますが、自分がかかわる方達と一つ一つ大事にかかわっていこうと思いました。
- 営利目的の企業の中で、どうゲシュタルトを使っていくかは永遠の課題かなと。我―それの代表としてブーバーが企業を書いていたような気がするので、昔の家族企業の良さと悪さ、今の株主至上主義の良さと悪さ、その中にどうゲシュタルト哲学が生きていくのか。有滝さんの社長さんへのごみ箱になりながら大義を伝える。小倉さんの解決しないカウンセリングを取り入れる試み。勇気をもらいました。
- 自分は会社をリタイアした人間であり、具体的なテーマを持って参加したわけではないので、ブレイクアウトルームを予定していると聞いて、びびった。そして、カウンセリングがまだまだ会社に受け入れられにくい現状（元人事マンとしてよくわかる）と、そこをすり抜けて、社会に役立たせている 3 人の講話者はすごいな、と思った。自分は、経営者でも管理職でもなく、一般社員に対して何かケア出来ないものかと考えているが、なかなか道筋が見えてこない。
- 産業界にゲシュタルト的アプローチが利用できることは前から思っていましたが、なかなか機会に恵まれません。正面突破でない方法の使い方も身につけないとなあ(笑)
- 利潤追求をしている業界でも、目的を達成しようと思うと、ゲシュタルトの哲学を実践するほうが、結局近道だと思いました。

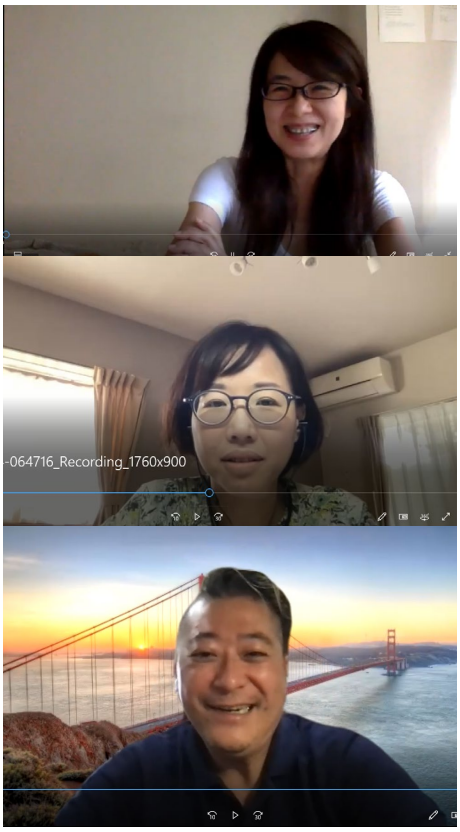
➢ 教育領域（シンポジスト：福本早穂氏・上條晴夫氏）

- スクールカウンセラーの方が多く、それぞれの場で感じていらっしゃる問題をお聴きする機会を持つことができてよかったです。上條先生の教育者を育てる授業でゲシュタルトやフォーカシングを活かしていらっしゃるということに、希望が見えました。親支援にもゲシュタルトを取り入れていらっしゃる SC さんの話は、もう少し詳しく聞いてみたいと思いました。不登校の子どもが学校に行けていることが OK ではな

く、過剰適応している場合もあることを言っておけばよかったかなと後で反省しています。

- 教育の場面におけるゲシュタルト、教えるのでなく気づきを促すことの大切さを感じました。不登校の持つ意味、分かっているからこその不登校、信じて待つこと、親が安定すると子どもが成長する・・・なるほどと思いました。
- 不登校や子どもの生きにくさと親子関係は、共通していて、自分自身がこれからどのように関わるかのヒントをいただきました。ありがとうございました。
- お二人のお話はとても勉強になりました。人数的にも皆さんのお話をお聞きすることができてよかったです。さっそく、アマゾンに本を注文しようと思いました。
- かつて不登校の子を持った親の立場として興味深かったので参加させていただきました。わたし自身が子どもと苦労していたころに比べると、現場の支援体制の選択肢も増えてきている状況のようです。たいへん参考になりました。ゲシュタルト的なアプローチが当時からできていれば・・・などと考えてしまうのは、未完結な問題を抱えた親の妄想のようです。

➢ 自己成長／自己研鑽領域（シンポジスト：岡田雅子氏・酒井志保氏・永井朋人氏）

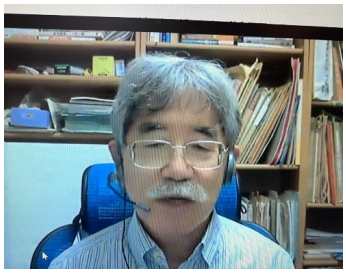
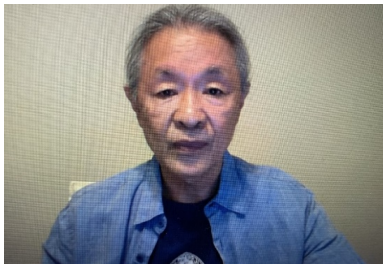
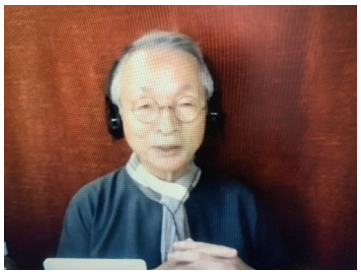


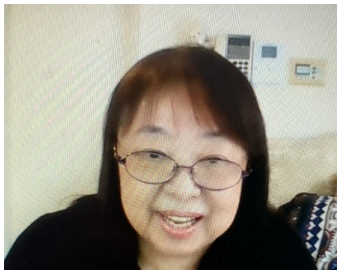
- どの発表もゲシュタルトは日常につながっているということを感じ私にとってのゲシュタルトということも改めて考える機会になりました。特に終末期の医療の話も聞くことができ、相手に興味をもつ、病気ではなく、人を診る。そして全人的という言葉が印象的でした。
- 発表者の方々それぞれが人との関わりの発表であり、みなさんキチッと人と関わりを持っていて、その中でゲシュタルト療法を役立てていらっしゃるのがわかりました。その中で私にとってのゲシュタルト療法とは何なのか、を考えました。自己成長のため、真の自己を知るため、苦しいことの原因を知ることと解放が目的でした。今も自己探究中です。他者と関わりがやはり重要なのかと気づかされました。そして、自分が思ったことを言い出せない、情けない自分にも気づきました。
- 3人の発表者がそれぞれ自分について話してくれて、一人ひとりに出会えた感じが豊かな体験だった。人それぞれの取り組み方で、ゲシュタルト療法を通じて今・ここで気づき、触れ、体験するプロセスが、自然にその人らしいありよう、関心、考え方、選択、生き方へと溶け込んでいく、言い換えればその人らしい自在な創造性がいきいきと働きだす。これこそが誰もが持っている潜在能力だろう。この実感を、言葉ではなく、分かち合えた感じがした。感謝でいっぱいだ。
- 自分の中でゲシュタルトとは何か、良くわからなかったけれど、私の中に染み込んでいるもの。どのように生きるかの哲学。自分を知ること、ものの見方の幅をひろげること、そして自分と他者とに出会うこと。いろいろ出てきました。
- ３人のお話それぞれが、とてもゲシュタルトが身近にあり、ご自身の人生に深く関わっている

ことが伺い知れて良かったです。ブレイクアウトルームでも、みなさんとゲシュタルトがどのように活かされているのかを聞くのはとても楽しかったです。ゲシュタルトが人生の一部となっている人たちにとって、学会がどのようにサポートしていくのかが、少し気になりました。生きた勉強が出来る場が少しでも増えていくと良いなと思いました。

研究発表

➢ 日本ゲシュタルト療法学会研修委員会専門コアメンバー（藤原勝氏・江夏亮氏・梅田福一郎氏・檀野竹美氏・三上道代氏・宮木智子氏）
「ファシリテーターの在り方～第 3 回　日本のゲシュタルト療法研究会」



- とても時間をかけて丁寧に準備なさっている感じで、参加してよかったと思いました。資料も頂けて嬉しいです。ありがとうございました。
- 岡田さんのビデオ講義、江夏さんの講義、どちらも落ち着いた語り口で聞きやすかった
- 江夏さんの枠では実践的で転移のお話はかなり明確になりました。ゆっくり話してくださりよくわかりました
- ファシリをしながらクライエントに対して陰性感情を抱いたとき、自分に対して肯定的受容をすると今ここで我汝の対話に戻ることができると気がつきました。今後留意していきます。ありがとうございました。
- 岡田さんビデオ久しぶりに見て印象が変わりました。ヨンテフの本をわかりやすく図示してくれて参考になりました。
- ファシリテーターも一人の人としてクライエントの前にいることがサポートにつながることを改めて実感しました。

➢ 上谷和美氏・鈴木明美氏「継続開催が出来るワークショップにするには何が必要か」

- 主催者がゲシュタルト療法の原則に立つことから、どういう場にしたいかが生まれ、原則に沿った場づくりに必要なことを繰り返し伝えながら実践されることが、有機的な関係性の成長につながっている印象を受けた。参加して有意義だった。
- 楽しかった。参加者として、何年も誰ゲシュに通っているので、自分ごととして聞けたし、一緒に参加しているような気持ちになった。二人が過剰に気負わず、自分らしくやってきたこと

を、それこそ、自分たちらしく発表されていた感じがして、とても親近感が湧いた。ゲシュタルト療法を知ってもらうという意味においては、敷居をさげて、ただワークを体験してもらう（安心して見ている体験も含め）ということは、ゲシュタルト療法周知の王道ではないか、と思った。全国で、このようなワークショップが広がるといいのにと思った。

- 我―汝の関係性を大切にして、日々の活動を行っているというお二人のお話でしたが、研究発表の場自体が、講演者も聴く人（参加者）も大切にされているなぁと感じられる場でした。
- 研究発表事態が『誰でのゲシュタルト』の場になっていたように感じました。お二人の信頼関係が素敵でした。
- 実際に継続的にワークショップを経験されている方のお話を聞けたのはとてもありがたいです。継続するためにはきめ細やかな対応や、開催するお二人のありのままの信頼関係、素敵だなって思いました。ブレイクアウトルームでもそれぞれの体験を通してのことはとても参考になります。
- お二人のパワーに圧倒されました。どのように努力されて来たのかは、大変分かりやすかったのですが、お二人だったから継続開催できたのだというのでは、もったいない気がしました。もう少し、他のグループ、団体、勉強会でも、継続開催に活かせる視点というか、何か活かせるヒントがまとまっているとより良かったように感じました。運営人数が多くなるとなかなか難しい気がします。全体としては、お二人に元気を頂いた感じがしました、ありがとうございました。

➢ 平松みどり氏「夢の正体への気づき」

- 夢のワークの不思議さと、夢は意識の抑圧を受けて形を変えて出てくるので、連想して気づいていくというのが興味深かったです。出てくるものはすべて自分の分身。そして、夢はその人のものなので、その人に寄り添っていくことの大切さを感じました。みどり先生の実際の夢のお話が素敵でした。
- フロイト、ユング、ゲシュタルトと、それぞれの「夢」のことについて、断片的に知っていましたが、今回発表を伺って、相違点が整理できました。みどり先生の個人的な夢のお話など、とても楽しく、時間があっという間に経っていました。
- フロイト、ユングの夢の解釈からゲシュタルトの夢のワークについて、みどりさんの快活な語り口で、とても貴重なお話を聞かせて頂くことが出来ました。お話を聞きながら、これまでたくさんの学びと体験を重ねてこられたことを改めて感じさせて頂きました。質疑応答の際も丁寧に、質問に答えられる姿に、素晴らしい先達に恵まれていることに感謝しました。
- 研究発表というより、ワークショップといってもよい感じの温かい時間でした。そして、夢のワークについて苦手意識がある私も夢のワークのファシリテーターもしくは、ワークをしてみたいと思いました。言霊があるといわれるように言葉をとても大事に。する姿勢、在り方とて

も学び多い時間でした。

- 平松みどりさんの 「夢の正体への気づき」に参加しました。ありがとうございました。ゲシュタルトであれ、他の心理療法であれ、「流派」が違う程度に思っていましたが、言葉が違う、呼び方が違う其の一つ一つに大切にしたいも、深い意味があると知り、目からうろこでした。
- みどりさんの夢への熱い思いへのお話が聴けて嬉しかったです。これからゲシュタルトで夢のワークをやっていきたいと思います。

➢ 岩崎風水氏・白坂和美氏「依存症者とゲシュタルト療法をするときにみる志向性」

- ３人の登壇者のそれぞれの事例やそこに関わる想いなど、実践的を通してのお話が胸に響きました。刑罰を受けた方たちの、社会へ繋がるためのサポートとしてゲシュタルト療法として役立つ部分があるのだなぁ、ということが理解できました。
- ゲシュタルト療法の良いところは、亡くなった方との対話ができ、未完了を完了できるところであると改めて気が付きました。これは、他の療法では中々できないと思います。
- ただただ、胸がいっぱいで涙がでました。何かしらの生きづらさやいろいろな要因があり、選んだ選択を間違い続けるもしくは、それしか選べない状況の起こった結果で、とても純粋な人たちであるように感じました。そして、依存症の反対は繋がりであり、心を開いてもらえる環境作りという言葉が印象に残りました。この研究発表を聞くことができて本当によかったです。
- しゃんぷーの人生とゲシュタルトの体験についての話に心を動かされました。室城さんからのご提案のように、自分自身の体験を語るという企画がもっとあってもよいなと感じました。
- 岩崎さんの様な体験をしてきた人、そしてそれを支えている人々、そしてそれらが協力することにより沢山の救われる人がいると感じた。ゲシュタルト療法が受刑者等の厚生のプログラムに加わるとよいと願っている。
- 胸をうつ内容でした。アルコール、ギャンブル、摂食障害、リスカ、色々な対象者とかかわりました。本当に支援の必要性な方々です。より理解がふかまりました。ありがとうございました。
- 罪を犯す人の見方が変わりました。また、ゲシュタルトが生きづらさを解消することで、罪を犯すことが減る、素敵な気づきでした。罪を犯さないまでも、人と繋がる、気持ちよく生活することで生活の質は格段に良くなるとわかり、嬉しかったです。

➢ 山本直氏「「聴く」への一考察―「現象学の三つのルール」から」

- 哲学的なお話も学びになりました。
- 聴くということの奥深さを感じました。哲学をかみ砕いて分かりやすく説明してくださいました。一考ということで、山本さんの仰ることを鵜呑みにするのではなく共に考えましょうというスタイルは、ゲシュタルトらしいなと思いました。

- 改めてファシリとしてのあり方を考え直す良い機会になりました。
- 哲学的な側面からのクライアントへのアプローチを聞かせていただきよかったです
- 現象学をよく理解できていないので、参加しました。哲学なので難しいですが、私の言葉で現象学を語れるように理解を深めていきたいと思います
- 現象学の 3 つのルールは難しいですが、今までのファシリテーターの在り方に気づきをいただきました。
- 課題を提示し意見を述べ合うことがきて勉強になった。
- 質疑応答の時間に、発表者の山本さんが平松さんにコメントを求められ、お二人の信頼関係と平松さんの愛情のこもった的確なコメントを聞くことができてほっとした。

➢ 宮木智子氏「地域に溶け込むゲシュタルト―地域包括支援システムにおける薬剤師の関わり」

- 薬剤師さんとしてさりげなくゲシュタルト的アプローチで患者さんとかかわるお話に感動した。薬や知識にしか目のいかない他の薬剤師さんとの違いも明白で、患者さんに関わることによって、薬が必要でなくなる場合もあり、とても素晴らしいことと思う。薬剤師さん、お医者さんのゲシュタルトを学んでくださったら、医療費も削減されるのではないかと思った。現場でのゲシュタルト的アプローチは無理であっても、訪問医療等では可能かと思う。サイゴノヒトコトで宮木さんが話された「実感」がこちらにも伝わってきた。
- 薬剤師の仕事のイメージが覆されました。医師が処方した薬をまちがいなく提供する仕事と思っていました。目の前の方の状態をよく観察して、寄り添っていかれるので、自分は心理職としてそこまでできているのかと自問していました。人として人とつながる過程に専門職が生きている、ということが素晴らしいです。自分も地域の行政とつながってできる支援をしていこうと思いました。
- とても興味深く参加させていただきました。私自身は、普段、福祉や医療にかかわっておらず、一般企業に勤めていますが、人の関りという意味では、どんな現場や環境でも根底にあるものは変わらないと思いました。かかわる相手に敬意をはらうこと、観察すること、興味を持ち続ける姿勢が本当に素敵だと思いました。
- ともちゃんのゲシュタルト愛と共に、人に対する愛を感じました。『自分でセールスした』ともちゃんらしい。素晴らしい！！
- プロとしての知識を活かしながら、仕事を超えて個人として個人と出会うことを生き方にしている。その意欲を感じてすばらしいと思った。
- セラピーとしてではなく、日常で心がけたらできることがあることを示唆してくれた素敵な発表でした。参加者のこれからに向けたエネルギーが動いた感じがします。
- 地域とのつながりを自分から作り自分の持てる知識を地域に還元していくことができるのは素晴らしいと思いました。と同時に私に何ができるのか考えてしまいました。

自主シンポジウム　三上道代氏・上谷和美氏・鈴木明美氏・ヘッド美佳氏

「ゲシュタルト療法を実践している方はどんなことに困っている？」

- 地方にいて、県内で集まれるグループがないので、いろいろ困っていましたが、今回機会を得て、非常に感謝しております。いろいろなご意見をうかがえたこと、アドバイスをいただけたことがありがたかったです。今後も、仕事と重ならない日程を HP で探して、ゲシュタルトのグループの皆様とはつながっていたいと思っています。ありがとうございました。
- ３時間があっ！と言う間でした。全国のゲシュタルト療法を実践しているメンバーとじっくり話す機会が貴重でした。このような場が、もっとあると良いと思いました。
- それぞれ悩んだり、困っていることが仲間と話ができてよかったです。グループを主催する人が「何のためにやるのか」「どのように安全を守るのか」それぞれの覚悟が問われるのだと思いました。自分自身や仲間がどのように最初の入り口（ゲシュタルトとの出会い）にたどり着いたのかを振り返り、もう一度共有することも必要かもしれません。
- このプログラムではブレイクアウトルームで少人数(6 名)で話しが出来たことが良かったです。時間もたっぷりあったので、それぞれの体験や意見をじっくり話し、聞くことが出来ました。またブレイクアウトルームで話し合ったことを全体でも十分に話が出来たのが良かったです。それによって、参考になること刺激になることがあり、私自身も活かしていきたいです。
- WS 開催について困っていることを話して、他の方も同じようなことで困っていることを知ることができ、シェアできてよかった。また参加者の立場で感じていることを聴くことができて、今後の運営にとても参考になった。
- ふだんの困りごとをシェアできる場であったことと、ある程度ブレイクアウトセッションでも時間があったことも良かったです。交流できたと実感しました。

会員によるワークショップ

➢ 江村珠美氏「オンライン・ファミリーコンステレーション・ワークショップ」

- 初めてのワークショップでした。もっとダイナミックな何かを想像していましたが、なにか事が淡々と進行されているように思えて序盤はよくわからない部分がありました。私は「母方の家族構成について明らかにしたい」というイシューを持って参加しましたが、終盤になるにつれそのイシューと進行がぐんぐん絡んできたことが、これが繋がりかぁ、と体験出来ました。面白かったです。実際に集まるワークショップも体験してみたいと思いました。
- 人形を通して展開されていく様が見ていて楽しかったです。お昼の後と言うこともあり眠く、ワークの途中で意識が飛んでしまい流れがよくわからなくなってしまったことがもったいなかったと思います。ワーカー本人が見ている立場、代理人が体を感じて発言する。代理人の一人でも違和感を感じるとそこに焦点を当てる。ワーカーだけでなく家族のみんなのこんがらがっている糸を解きほぐしているようでした。
- オンラインですることで配置や動きがわかりやすいと思いました。リアルでの体験があるとさらに感じられることもあるとも感じました。とても興味深かったです。ありがとうございました。
- お人形を使った本格的なファミコンは初めてでした。お人形に心を合わせる代理人がいるほうがよりリアルに近づくという当たり前を改めて感じました。

- ワークを見ている中で、人と人がすれ違ったり、傷ついたり、不安になったり、怒ったりその全てが愛情からなんだと感じることのできるワークでした。先祖がいて、親がいて、自分がいる。その誰１人かけていても自分という存在はなかった。頭ではわかっていてもなかなか実感することはないことを、ワークを通して感じることができました。

➢ 岩崎風水氏「リフレクティング・プロセスの説明と実践」

- とても豊かな時間でした。すぐにでも応用できるリフレクティングを学べてよかったです。
- 風水さんの在り方、姿勢、態度が、室城さんに似ているなと感じました。飾らず、ありのままの自分でいる、私も私でいい。変わらなくてもいい。そう感じることができました。内容もよかったのですが、これが「生き方を学ぶためのゲシュタルト療法」なんだなぁ、ステキと思いました。ありがとうございました。またお会いしたいです(^^♪
- ３日間、ずっと慌ただしい感じでしたが、最後のプログラムでやっとゆっくり話すワークの時間が持てて、大変満足しました。
- 午前中の百武さんの講義内容の対話についてのリアルな実践体験ができたように思います。
- ２回のセッションで、やってみたところ、オブザーバーが自分の体験を重視すると、やっている人の体験が置き去りになってしまうとか、難しいと思ったが、２度目を行うことで、イメージがわいてきた。オブザーバーの言葉を聴くことは、とても刺激的でした。

➢ 渡辺光俊氏「何もしないゲシュタルト」

- 参加者それぞれが、何もしないことを、その人なりに選択して過ごした時間が、とても心地よく、私にとって有意義な時間でした。その場を支えてくださった渡辺さんに感謝します。ありがとうございました。
- 何もしないとは、どんなことかと興味をもち参加しました。穏やかな時間でした。そして平和な私がいました。ありがとうございました。
- 久しぶりにゲシュタルトに参加したので、様子見と思いタイトルで選んだのですが、自分にとってとても良い気づきの場になりました。自分と向き合う時間と勇気を頂けて、本当にありがとうございました。
- 「何もしないゲシュタルト」の場は、「何もしない」ということをする場でした。自分らしく過ごせた安心・安全な場でした。
- 自分の心の動きをしっかり感じることが出来た。ゆっくりとした良い時間を過ごせた。

ありがとうございました！　～第 11 回大会事務局より～

初めてのオンラインでの大会、成功して良かったです！皆さん、ありがとうございました！！（室城隆之）	万物生々流転。その中でも試行錯誤しながら大会を開催できました。これも皆さんの努力、協力のおかげでした。感謝。（山本直）
オンラインで皆さんと交流できて、私自身にとってのゲシュタルトを振り返ることができました。また皆さんとお会いできることを願っています。ありがとうございました。（筒井優介）	140 名近くの方に参加していただきました。皆様の暖かさに支えられて一つ一つのプログラムをお届けすることができたのだと思います。感謝しております。（定行雅代）
学会の今後について「みんなで話し合う」ことで学会員の皆さんにも自分の身近なこととして考える良い契機なったことはとても有意義だったと思います。（高山豪史）	今できることを精一杯やり遂げた達成感と、スタッフとして参加できたことに感謝しています。ご参加いただいた皆さま、有難うございました。（相模佳世子）
会員のお一人おひとりの中にゲシュタルトの心が灯り、社会に活かされていることを実感したとても嬉しい出逢いの大会でした。Zoom ならでは！（水野賀弥乃）	オンライン大会にもかかわらず、沢山の方々に参加いただいたことがとても嬉しいです。ゲシュタルトが大好きな仲間とお互いの体験を共有できた充実した 3 日間でした。（三上道代）
まずはオンラインで無事開催出来て良かったです。皆さんと学会について話し合えたことも良かったです。皆さん、話し始めるまでには時間が掛かるものの、話し始めると、やめられない止まらない状態で、時間が足りなくなるくらい溢れる情熱を感じ、とても嬉しく感じました。長時間のオンライン大会にご参加頂き、ありがとうございました。（渡辺光俊）	楽しかったです！海外のアンセルにも会えたし、ももちゃんの講義も聞けたし、室城さんのおかげで学会の方向性も感じることができたし、画面越しではありますが遠くの仲間にも会えたし充実した豊かな時間でした。きっと他の理事の方はてんやわんやで大変だったと思います。個人的には大会当日グループラインでのやり取りが非常におもしろかったです。発表者の話が想定外に長くスケジュールの変更をバックヤードであたふたしたやり取りがよい思い出となりました。（宮木智子）

研修委員会からの報告①
「夢のワーク」のファシリテーション

6月27日にJAGT研修委員会主催の研修会**「夢のワーク」のファシリテーション**が、オンラインで開催されました。

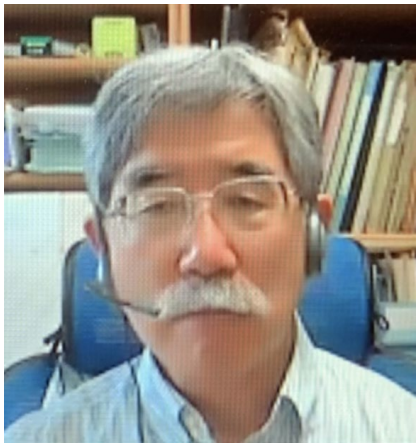
今回は江夏亮氏に登壇していただきました。「夢は自分からのメッセージであり、解釈や分析をせずクライエントとともに探す」といわれますが、今回の研修では夢のワークについて理論（講演）やワークのデモンストレーションを通して実践的に学んでいただきました。

日時：2021年6月27日(日)10：00～17：30
場所：オンライン
講師：日本ゲシュタルト療法学会スーパーバイザー　江夏亮氏
参加者：会員28名　非会員0名　合計28名

午前中の講演の内容

1）ゲシュタルト療法の「なる」の理論的背景とその限界
1．「なる」のテクニックで上手くいかないときはどういう時か。
2．夢の歴史
3．夢分析の流れ
4．これまでの代表的な夢理論
5．シンボルの意味
2）夢のファシリテーションで大切な事柄
1．分析家に必要な態度
2．夢分析の道具
3）夢の背景を知る
1．夢の背景とは；その人の「今」の人生
2．夢のファシリテーションの代表的な進め方
3．夢と臨床
4．繰り返しの夢
5．夢のテクニック：夢の書き換え「結」を補う
6．夢孵化―夢から答えを得る
7．夢のトランスパーソナルな次元

以上について江夏先生から詳しい説明をしていただき、これまでトレーニングコースで学ぶことができなかった夢のワークについての理論的背景やワークの進め方を学ぶことができた有意義な時間となりました。



講師：江夏亮氏

午後・２つワークを通しての実践的学び

午後は、午前中の講義の内容を実際の二つのワークをデモンストレーションしていただき学ぶことができまいた。

夢のワークの進め方の実際（例：ワーク１）

1．CLに近況を質問
2．夢の内容を質問
4．夢の中に出てきたシンボルについて質問
5．CLが今は違うことに気づく
6．FAがアクティブイマジネーション（シンボルになってみること）を提案
7．CLがシンボルになってみる。
8．FAがCLにどんな感じか質問。その中でどのシンボルと対話するか質問。
9．CLはシンボルと対話
10．CLに対話したシンボルになるよう促す。
11．CLはそのシンボルになって「私は～です」といってワークを進める。
12．FAがワークを止めCLにどんなことが起きているか質問
13．FAがCLの起こっている体験を聞き、他のシンボルになってみることを提案

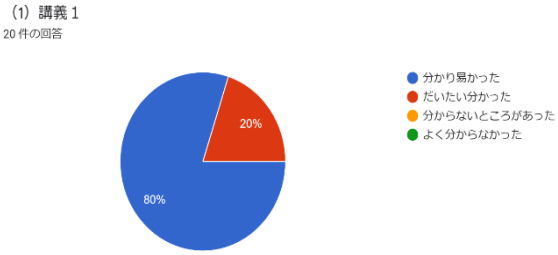
14. CL はそのシンボルになって「私は～です」といってワークを進める。
15. FA はワークを止め、それを感じて今どんな思いが浮かんでいるか質問。
16. FA は CL が感じていることを CL 自身が感じている可能性があること。相手が感じている可能性があること。両方が感じている可能性があることを伝える。
17. CL の見解をはなす。
18. 全体として CL がどんなメッセージを受け取ったかについて質問。
19. CL が受け取ったことを話す。
20. これからどうするか．夢のシーンでいくとどうなるかを質問
21. CL がこれからどうするか、夢のシーンの結を話す。

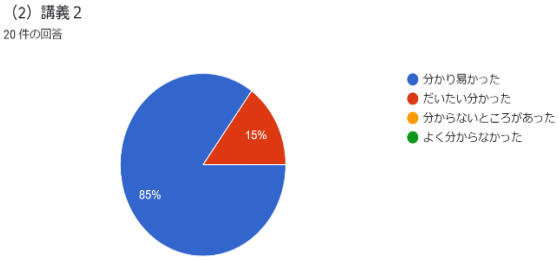
ファシリテーションの進め方は CL の語る内容に応じて、午前中の理論で学んだことを実際に使いながら進めるというものでした。そのことで理論と実践が繋がり夢のワークのファシリテーションについての理解が深まりました。これまで学んできた現在進行形で進める定番の進め方からさらにファシリテーションの幅が広がったと感じました。

さらに、この進め方は CL が実際の生活との関連に気づき、結を話すことで今後どのようにしていけばよいのかの答えを得ることができ、現実の生活に役立つ有効な方法だと感じました。

【6 月 27 日アンケート結果報告】

＜午前中の講演 1・講演 2 について＞





＜講座全般について（一部抜粋）＞

・夢のワークをする際の関わり方のいくつかを、実際に午後のワークを通して見て一緒に体験する事が出来て、とっても良かったです。
・江夏先生のアプローチの豊かさを感じました。ワーカーにとって自由な中での気づきがあるワークを拝見できたことも良かったです。
・とても良かったです。ぜひ続編を～！
・夢のワークについての、可能性がとても広がりました。
・大変有意義な一日を過ごせましたことに感謝します。レジュメ、進行ともに一つひとつわかりやすくまとめていただいてありがたいです。
・理論と実践の両方を通して学べたのは良かった。

＜今後のご要望ついて（一部抜粋）＞

・また、江夏さんにお願いしたいと思います。
・ファシリテーターとして、スーパーバイズを受けられる機会や、家族連鎖(ファミリーコンストレーション)などのワークとの関わり方などが学べる機会があると有り難いです。
・再度夢のワークについての研修を受けたい。
・トヨ子さんのＳＶ講座をお願いいたします。
・夢のワークを体験してみたいです。
・グループファシリテーションのコツなど。
・またこのような機会があると嬉しいです。前回の投影物語法も今回の夢のワークも、大変勉強になりました。自分の人生を支えるためにこの知識を役立てたいと思っています。

研修委員会からの報告②
ファシリテーターの在り方を探索する！
オンライン大会
第３回日本のゲシュタルト療法研究の発表

７月 23 日に開催された JAGT オンライン大会で、日本ゲシュタルト療法学会研修委員会が発表、44 名が参加されました。内容は、今年、３月７日(日)の第 3 回日本のゲシュタルト療法研究会のエッセンス版でした。学会スーパーバイザー江夏亮・ゲストスピーカー岡田法悦の両氏による「ファシリテーターの在り方～自分に気づく～」について発表しました。事前打合せやリハーサルを 2 回重ねたこともあり、参加者からはわかりやすいと好評でした。

【内容概要】

◎関係対話アプローチで心の奥底を共有する

岡田法悦さん（ビデオレター）

昨今はやりの関係対話アプローチのエッセンスをゲイリー・ヨンテフ博士の論文を引用しながら事例を交えて説明。

１．インクルージョン

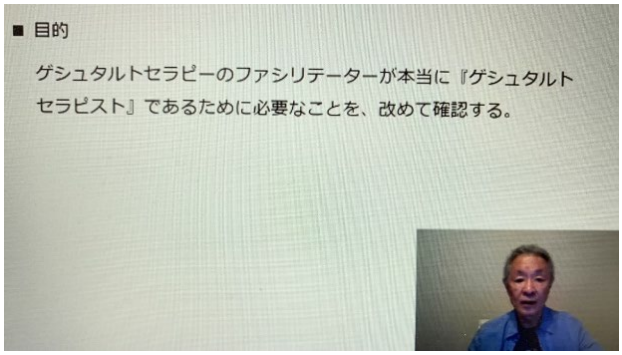
ファシリテーターがクライエントの気持ちを受けとめるスペースを心の中に持ち、クライエントが感じているままを味わいつつ、それを味わっているファシリテーターに起きる感情・感覚を伝えたければ伝えます。

２．肯定的受容

クライエントの気持ちがたとえ否定的なものであっても、そういう思いを持つことがクライエントにとって何らかの意味で大切なのだと受けとめます。

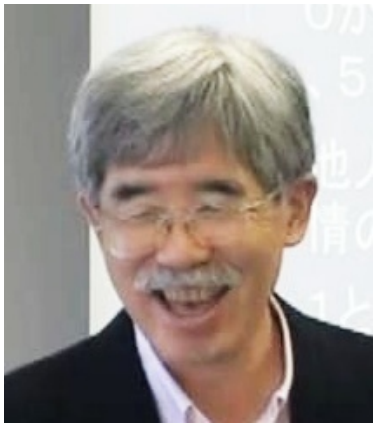
３．対話の没頭(間に身を委ねる)

分析・解釈・評価など思考に入らず、目的や落とし所を設定せず、また「上手くやりたい、失敗したくない」などの気持ちを持たず、今・ここで起きる感情・感覚をそのまま伝えます。



◎あれ、変だと思ったら「クライアントの転移」を疑ってみる

江夏亮さんの発表



うまくいかないファシリテーションを精神分析の理論を用いて、転移・逆転移の概念で説明。普通に傾聴しているのにクライアントがぎこちない態度。後で聞いたら、ファシリテーターが父親や祖父に似ているから緊張したり反発したりしたとのこと。

この概念をファシリテーターが知っていると「あれ、変だな、もしかしたら転移？」と思うだけでも関係がスムーズに戻せます。

【参加者の感想】

◎ 全体

・とても多くの時間をかけて丁寧に準備なさっているのが伝わりました。資料もいただけありがたいです。

・ファシリテーターも一人の人間としてクライアントの前にいることがサポートにつながることがわかりました。

◎ 岡田 法悦さんの発表に対して

・ヨンテフの本をとてもわかりやすく図示していただき関係対話について理解が進んだ。

・自分に対して肯定的受容をすると我汝の対話に戻ると気づきました。

◎ 江夏 亮さんの発表に対して

・転移、逆転移は知っておくべき必要な概念ですね。対応方法が参考になりました。

・実際のセラピでは気付くのが難しいですね。ファシリテーターとして継続した課題と思います。

◎ グループセッションに対して

色々な方とお話しすることで、学ぶこと、気づくことがありました。コミュニケーションができ、楽しく有意義な時間でした。

【お知らせ】第 4 回日本のゲシュタルト療法研究会

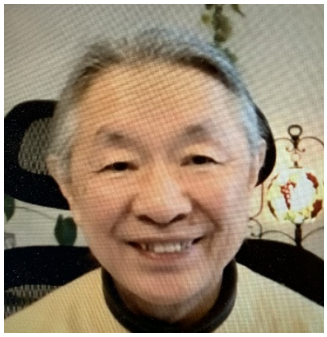
1．日時　2022 年 3 月 7 日（日）10:00～17:30

2．場所　都内（集合講座）または新型コロナ感染の状況に応じてリモート配信で行います。

3．テーマ　「ファシリテーターの“在り方”～ファシリテーターが困った時～」

江夏亮氏、岡田法悦氏、による小講演と個人ワークデモンストレーション

4．申し込み　日本ゲシュタルト療法学会事務局まで（1 月頃にアナウンスします）



● 研修委員会からのお詫び

研修委員会では昨年度皆様からご協力いただきましたアンケート結果をもとに、要望が多かったスーパービジョン講座を、11 月～12 月をめどに企画しておりました。まことに、残念ながら講師との日程調整がつかないため来年度に延期させていただくことになりました。開催を待ち望まれていた会員の皆様に心からお詫びを申し上げます。来年度の日程が決定次第お伝えいたしますので宜しくお願いいたします。

～　国際交流コーナー　～

海外の学会の現状および取り組み、ワークショップの情報を紹介します。

【海外学会の現状】

IAAGT 4月～6月ニュースレターの情報を元に、海外においての催物の状況をご紹介致します。

2021 年 IAAGT 年次総会は、7 月 23 日～7 月 26 日に開催されました。偶然にも JAGT 大会と重なりました。JAGT 大会の基調講演とワークショップをしてくださいました Ansel L. Woldt 博士はお忙しく両大会に参加なさってました。「来年は両大会が重ならないで、日本の会員の方も IAAGT 大会に参加してくださると良いですね。」と仰ってました。

今年の IAAGT 大会のテーマは、「ゲシュタルトと私たちの国際的交わりを、一体性（inclusion）、繋がり（contact）、楽しさ（fun）を通して深めよう！」。

世界中の会員が参加できるように、スケジュールの時間帯は明記してくださいますが、ほとんどのスケジュールは、日本時間の夜分から明け方でした。この大会では、会員が以下について考えるように予め促しています。

- この会について気づいたこと、また役立っていること。
- ゲシュタルト哲学、理論と実践を如何に進化できるか。
- この会が如何にして、互いの相違、多様性を取り込み、平等と一体性について、深め進めてゆけるか。

急激な変化の時代の中で、クライアントのみならず IAAGT の会員も移行期の只中にいることを認め、この年次総会のイベントも一つの経過であり共につながる機会であるととらえて総会企画チームの方々は会員にメッセージを送り続けていました。

また、IAAGT 年次総会付随のお楽しみ CABARET AND CÉILÍ（“kay-lee”と発音します。）が、毎日プログラム終了後に催されました。愉しく、心温まり、魂触れ合う集いー詩、歌、楽器、散文、余興、コメディ等、会員が披露します。きっと、世界中の会員が様々な出し物を披露しこのイベントを盛り上げたことでしょう。

IAAGT Newsletter に掲載されたトムの詩

「触れもせず」

スウェットシャツがそのまま棚にある
彼のクローゼットのすぐ脇に
包まれたまま
タグも付いたまま

父の日のためのナイフ
箱に入って
鏡台の引き出しにそのままに
彼のベッドのすぐ脇に

彼は僕が触れることをゆるさなかった
「男は抱き合ったりしないもんだ！」

彼が第二次世界大戦へ行ったとき
彼の父は彼と握手した
男らしく

彼に買った贈り物
そのまま使われずに
彼が逝くのを待っている
そのまま僕に戻ってくるのか

触れられもせず
彼に
僕と同じように

この詩はトムがお父様のお葬式で大きな声で詠んだ詩です。多くの父－息子の関係を物語って

いるものとして掲載されていました。Ansel L. Woldt 博士は、この詩をカナダの AAGT 大会（IAAGT の旧称）において詠み、多くの方が共感しコピーを希望されたので配布なさったそうです。博士の許可により IAAGT Newsletter に掲載され、また日本語訳を JAGT のニュースレターに掲載することも許可して頂きました。

【研修、ワークショップ等】

- クリーブランド・ゲシュタルト研究所ワークショップ
  (The Gestalt Institute of Cleveland)
  連絡先 GIC Office:　216-421-0468
  http://www.gestaltcleveland.org

① 「対面－回復力を造り、ストレスを管理し、感情を調整する：馬の心、ハートマス、ゲシュタルトによる導き」

ストレスと不安のカオスの中での生活の中で、みんなにとってより良き世界を造って行けるよう、一貫性をもち、思いやりと勇気と自信の持てる元気な場を一緒に造って行きましょう。この体験型ワークショップはセラピスト、コーチの方々にとって個人的また職業的見地からの成長を促すでしょう。クリーブランド市街から 45 分の 80 エーカーの馬の牧場で、天候にもよりますがほとんどを野外で行うワークシップです。

講師：Jackie Lowe Stevenson, MSSA, LISW, EAGALA CRT, BCC. GPCC
日時：2021 年 10 月 3 日
参加費：395US ドル
会場：9796 Cedar Road, Novelty, Ohio 44072

② 「関係性の中の身体/自身に関わる：内側と外側の共存体験」

自分自身のフェルトセンスに焦点をあてて、外側への動きをサポートし、相互関係へと向かいます。身体相互の影響を探ることを通して、体現化する分野を造って行けるかを探ります。

講師：Ellen R. Hoffman, MA, LPCC
　　Michael Clemmens, Ph.D.
日時：2021 年 10 月 8 日 - 9 日
参加費：336US ドル
形式：オンライン研修

- 2022 年 IAAGT 大会「追放と帰属の境界」
  ‘Edges of Exile and Belonging’

日程：2022 年 5 月 17 日～22 日
会場：Falls Hotel (Ennistymon, County. Clare, Ireland)

2021 年 12 月より申し込みを開始します。ウェブサイトは常時更新していますので、詳細はそちらをご覧ください。お問い合わせは、大会事務局、または Nicola Ray (admin@iaagt.org) 迄。

会場となる Falls Hotel & Spa では現在、会議等の予約を受付けています。対面での大規模な大会となることを期待しておりますので、お早目の予約をお勧め致します。もしも Falls Hotel が満室になった場合は、3 キロ離れた Lahinch Coast Hotel にご予約が可能です。Falls の予約はウェブサイド www.fallshotel.ie から可能です。IAAGT パッケージとして参加者特別価格があります。

来年 5 月アイルランドでお会いできますことを楽しみにしております。それまで、ご安全にお過ごしください。

IAAGT 大会事務局
Maryanne Nichols: maryanne@iaagt.org
Deirdre Foley: deirdre@iaagt.org

- 書籍紹介

Philip Brownell, “Christianity and Gestalt Therapy – The Presence of God in Human Relationships” 2019 Routledge

以上ご紹介する研修、ワークショップはまだあるのですが、紙面上、割愛させて頂きました。

国際担当理事
水野　賀弥乃

ワークショップ情報

【理事会主催勉強会】

➢ ゲシュタルト療法 オンライン理論勉強会

現在、新型コロナウィルス感染拡大の影響によって対面でゲシュタルト療法を学ぶ機会が少なくなっています。そこで、日本ゲシュタルト療法学会では、この度オンライン形式によるゲシュタルト療法理論の勉強会を企画しました。計 9 回のシリーズ企画ですが、1 回ずつでも参加できます。話題提供者は、日本ゲシュタルト療法学会の理事が務め、毎回、学会発行の**『ゲシュタルト療法テキスト＜新版＞』**の中から、各話題提供者が選んだテーマを採り上げます。最初に話題提供者がその会のテーマについての話題を提供し、エクササイズ等を行い、後半はそれに関するディスカッションを行います。オンライン形式なので全国どこからでも容易に参加可能な勉強会ですので、お気軽にご参加いただければと思います。これを機に、ぜひゲシュタルト療法の理論の学びを深めていただければと思います。

※ 【使用するテキストの購入】は、学会ホームページからお願いします。

https://www.ja-gestalt.org/study/text-info/

《開催スケジュールおよび話題提供者》

10 月 22 日(金)20:00~22:00：三上道代氏

6 章：ファシリテーターの在りよう

～ファシリテーターとしての倫理～

11 月 27 日(土)14:00～16:00：渡辺光俊氏

6 章：ファシリテーターの在りよう

～自分に起きていることに気づく～

※ 開催日程および内容が変更となる場合があります。

《参加費》

会員：1 回 1,500 円　非会員*：1 回 2,000 円

(*一般の方々、及び 年会費 未納の会員)

詳細・お申込は、学会ホームページより。

https://www.ja-gestalt.org/study/online-study/

【研修委員会主催研修】

各研修の詳細やお申込み・お問い合わせは学会ホームページをご参照ください。

申し込み：

https://www.ja-gestalt.org/form_toi.html

お問い合わせ：jagt-seminar@ja-gestalt.org

➢ 第 4 回 日本のゲシュタルト療法研究会

「ファシリテーターの在り方その 2～“難しい”と感じるクライエントへのかかわり方～」

開催：2022 年 3 月 6 日（日）10:00～17:30

会場：オンラインまたは集合研修かは状況次第

定員：30～50 名

参加費：会員¥5,000　非会員￥7,000

講師：江夏亮氏・岡田法悦氏

2021 年 3 月 7 日の研究会で参加者の関心が合ったテーマをさらに掘り下げます。

例えば「自分が難しいと感じる」クライエントへの対応をファシリテーターとしてどうするかなどを、講師の話だけでなく自分自身や他の方の体験を共有し対応についてともに学び研究していく講座となっています。

「自分が難しいと感じる」クライエントへ対応をする時、ファシリテーター一人だけでファシリテーションを進める必要はありません。グループの参加者からサポートを得る事も可能です。更にはクライエント自身からもファシリテーションの次へのヒントをもらえます。これらに関して講師が幾つかのやり方を提供して、参加者と共に掘り下げていきます。

その際、参加者から「自分が難しいと感じる」クライエントについて具体例を提供いただければ、その対応法を、安心な環境の中で理論面と実験的側面の療法から探っていけます。自分一人で悩む必要はありません。この研修の中でよりよいヒントを見つけていただければと思います。

事務局からのお知らせ

○　住所移転のお知らせ

日本ゲシュタルト療法学会は、2021 年 6 月 1 日に住所を移転いたしました。

移転先新住所と電話番号を下記の通りお知らせいたします。

会員の皆様、今後ともよろしくお願い致します。

［新住所］

〒 107-0062

東京都港区南青山二丁目 2 番 15 号

ウィン青山 942

［新電話番号］

03－6403－7545

○　学会サイトでのワークショップ/セミナー情報の掲載について

JAGT サイト上でのゲシュタルト療法、あるいはゲシュタルト療法に関連するワークショップやセミナーなどの開催内容の告知、掲載についての申込受付を 7 月 1 日より開始いたしております。

ワークショップ/セミナー情報の告知、掲載に際しての条件につきましては、主なものとして

・開催内容のタイトル（もしくは、サブタイトル）の一部に主催する団体や、グループの名称の表示以外に「ゲシュタルト」の文言が含まれていること

・掲載費

個人会員：　3,000 円 /1 回の掲載ごと

登録団体：　5,000 円 /年（初回の情報掲載の受付対応後、１年間に限り何回でも複数回の掲載希望に対応）

・毎月、以下の２回の申込締切と、同月、翌月での掲載（申込分一括）

①　１日～１５日までの申込

⇒同月２５日に一括してまとめて掲載

②　１６日～月末までの申込

⇒翌月１０日に一括してまとめて掲載

等の条件を設けさせていただいております。

詳細につきましては、以下リンクの資料に記載の内容をご参照ください。

【WS/セミナー情報掲載のご案内】

https://www.ja-gestalt.org/02f2

○　退会の意思表示方法については、以下のいずれかにて退会希望の旨のご連絡をお願い致します。

＜連絡項目＞

会員番号・氏名・退会希望の旨・登録の住所

【学会事務局へのメール連絡】

jagt@ja-gestalt.org

【学会 HP の問い合わせフォーム】

https://www.ja-gestalt.org/form_toi.html

【郵送】

〒 107-0062

東京都港区南青山二丁目 2 番 15 号　ウィン青山 942

日本ゲシュタルト療法学会

行き違いで直近の郵送物・メールマガジンが届く場合がございますのでご了承ください。

また退会に伴う納付済年会費の返金はございませんので、ご了承下さい。

《編集後記》いよいよ第 5 期評議員選挙が迫ってまいりました。私たち第 4 期理事・評議員の任期も残すところ僅かとなりました。残された時間でできることは少ないですが、学会をより良いものにできるよう引き続き尽力します。どうぞよろしくお願いいたします。（広報担当・筒井優介）

日本ゲシュタルト療法学会
〒107-0062 東京都港区南青山二丁目２番 15 号 ウィン青山 942
TEL 03-6403-7545
WEB: https://www.ja-gestalt.org